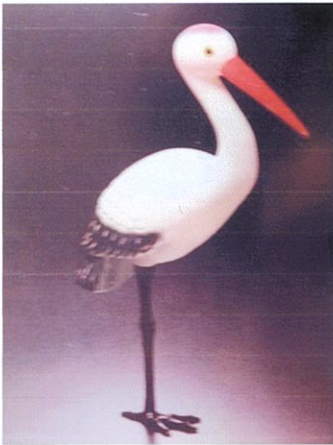


## 酉年に思う(コウノトリ)



なりました。

写真のコウノトリはセルロイド製です。

鶴類のコウノトリは、特に恰好が良いので、セルロイド工業が盛んだった時代に、大量に作られ販売されました。

平成 29 年の干支は酉、すなわちニワトリです。ニワトリ以外の、もっと恰好の良い鳥(トリ)がないか、と考えてみました。

結果は、やはり鶴(ツル)類が良いということに



セルロイドの一本足のコウノトリが、昭和 7(1932)年の頃、アメリカに輸出されました。メーカーは、東京・葛飾の関口セルロイド工業さんです。上の写真は、当時の鶴の製造現場の写真です。

戦後の昭和 20 年以降、アメリカから多くのビジネスマンが来日しました。

そこで分かった事は

「貨物船に積んでアメリカに着き荷下しされたセルロイドのコウノトリは、胴体が、ぺちゃんこに潰されていた」

ということでした。

100年前のことですので、当時の各種状況から察して、そのような事もあったのだらうと思います。

一本足のコウノトリ、とても恰好いいですね。しかし、鳥(トリ)は二本足です。一本足の鳥は世界に一羽もおりません。でも人の目に一本足に見える、シーンがあるのは確かです。

\*\*\*\*\*



右写真のコウノトリは、セルロイドハウス横浜館にて常設展示中のコウノトリです。1932年ころに製作されたものと思われます。

実物 45 cmのセルロイドの置物です。  
これを陳列作業中に2度ほど高台から落してしまいましたが異常ありません。  
セルロイドは割と頑丈なのです。

\*\*\*\*\*



この鶴の写真は、北海道鶴居村の伊藤タンチョウサンクチュアリ。  
村人から土地を譲り受けた「日本野鳥の会」が、サンクチュアリを設立して 30 年。



マイナス 30 度にもなる冬期の夜明け前に、ねぐら雪狸川にかかる音羽橋にはカメラのレンズがずらりと並び、川霧の中に舞う幻想的なシルエットを狙う。

{マイナス 30 度にもなる厳冬期の夜明け前には、眠っている鶴の足が一本足に見える}

人口 2500 人の村に国内外から年間 15 万人以上の観光訪れる。「寝ている姿を見に行きましょう」。

夜半に別の川に案内された。カメラの液晶で確認すると、遠く月明りに照らされた数羽が見えた。白い羽毛に頭を潜らせ、一本足で川の中に立って眠っている。

人を容易に近づけない、静かな厳かな光景であった。

国の特別天然記念物・タンチョウは、夏は釧路湿原で暮らし、餌の乏しくなる冬、多いときには、300羽がここにやってくる。

このタンチョウは、北海道内に生息するが、学名はグルス・ヤポネス。日本の鶴という意味。

「平成 29 年 1 月 4 日」の夕刊読売新聞を参照」

(一本足タンチョウの写真表示は、ありません)

※東京都立多摩動物公園では、コウノトリを金網の中で飼育しています※

H29 年 2 月 22 日(了)

